

26PB-am034

栃木県内の薬局データを用いたインフルエンザ感染伝播パターンの解析

○齋藤 充生^{1,2}, 杉山 諒¹, 近藤 澄子³, 田中 直哉³, 林 謙^{1,2}, 矢島 毅彦² (1帝京平成大,²ヘルスヴィジランス研究会,³ピノキオ薬局)

【目的】我々研究グループは、第58回日本薬学会関東支部大会において、動画を用いたインフルエンザ感染の日間変動の観察から、感染拡大の方向は、東京都心部から郊外、栃木県宇都宮駅近辺から周辺地域であることを観測した。本発表においては、宇都宮駅近辺から周辺地域への感染拡大の様子を詳細に調べる。

【方法】栃木県を拠点とするピノキオ薬局の26店舗における抗インフルエンザ薬の処方せんから、患者数時系列を作成し、そのピーク日をそれぞれの薬局で求めた。データの期間は2011/11/1～2012/4/30の1シーズンであり、シーズン総患者数は薬局ごとに異なり、最小28人から最大645人であった。薬局の位置と感染ピーク日を地図上に示し、インフルエンザ感染の地理的推移を観測した。

【結果】感染ピーク日は、宇都宮駅近辺では1/10～1/29と広範囲であるが、小山市(1/24～1/29)、下野市(1/19～1/31)、大田原市(1/19～1/26)、真岡市(1/25～1/29)、鹿沼市(1/21～1/26)それぞれにある薬局ではピーク日が互いに近く、感染時期の後半にあることが多かった。また、一店舗だけがある地域の感染時期は、那須塩原市(1/21)、栃木市都賀町(1/27)、芳賀郡市貝町(1/27)、那須烏山市(2/4)であり、栃木県全体の感染時期としては遅い方であった。

【考察】インフルエンザは最初に宇都宮駅周辺で観測され、少し遅れて周辺地域で観測されることから、インフルエンザの感染伝播の様子が捕捉されたと考えられる。栃木県は、東京都と比べて、人口密集地である市・町が地理的に離れているため、人口密集地間の感染伝播を観測するためのモデル地区とも考えられる。多くのシーズンのデータを解析し、感染ピーク日のシーズン間のランダム性などを調べ、感染パターンの研究をさらに進める計画である。